

花 粉 症

恩方囲碁同好会々長 藤森 力

オンラインで同好会の仲間と対局していると、いきなり大きなクシャミ、机の上の碁盤が揺れいよいよ始まったか、今年はひどくなりそうだなと憂鬱な気分になる、言わずと知れた花粉症である。



まだ 3 月、これから一ヶ月半は苦しまなければならない。北斗市、八ヶ岳南麓の杉林近くで生まれ育った私、花粉症だけは絶対ならないと思っていた。ところが 30 年ほど前、突然発症した、鼻水は絶えることなくひっきりなしにでて、ティッシュは欠かせない。目はごろごろで目玉を取り出して洗いたいし、目尻と鼻の付け根はただれて痛い。布団や洗濯物など外に干そうものならその夜は眠れない。この辛さは経験者でなくてはわからない。それこそ花粉のない北海道か沖縄にでも移住したいと思う。実際この時期は何度か緊急避難として沖縄に行ったこともあった。

反射条件というものか、あの赤茶けた陣馬山系の杉林を見れば、それだけで、ハツ・ハツ・ハクシオンであるコロナ禍のいま、一番困ることは交通機関利用の時である。クシャミなどしたらそれこそコロナではないかと警戒されてしまう、かといって我慢することもできず、結局この時期は外出しないが一番と自らを諭す。

桜が咲き、次々に春の草花も咲き一年で浮かれたい季節、外に出られなことは辛い。普段は浅川の土手か、足に優しい土や芝生の小野田公園を散歩する日課だが、この時期は我慢・我慢である

こんな花粉症も不思議なことに 5 月の連休を過ぎるとピタッと諸症状がおさまってくれる。あのヤケクソのようなクシャミも、涙目も、鼻水もクシャミによる腹筋痛も嘘のように癒えてくる。花粉症で悩んでいる我々にも、やっと人並みの嬉しい、嬉しい春の訪れだ。

(2022 年 5 月 26 日)